

大気・水質汚染防止と用水使用量低減

SOx、NOx、ばいじん、BOD等の排出量の削減や、用水使用量の削減に取り組んでいます。

大気汚染物質(SOx, NOx, ばいじん)の削減について

定期的な排出量測定と法規制順守

国内拠点では、大気汚染物質の法定基準値を順守するため、自主基準値を設定し、定期的(年2回)に測定を行っています。海外拠点では、法定基準値が設定されている場合は、定期的(年1回)に測定を行っています。いずれも法規制値を順守しています。

排出量の推移

2003年度以降、国内エレクトロニクス機器事業の大気汚染物質排出量が大きく増加した理由は、山形カシオにおけるコジェネレーションシステムの導入および本格稼動したためです。

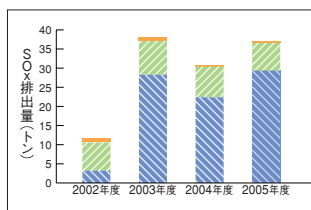
2005年度の実績

カシオマイクロニクス(青梅)では、冷温水発生器の燃料をA重油から都市ガスに変更することで、SOxの排出量を2004年度に比べて1.4トンから0.8トンに削減しました。

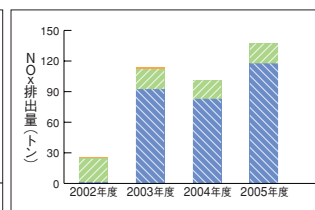
今後の取り組み

A重油から都市ガス、灯油、LPGなど大気汚染物質のより少ない燃料への代替を検討します。

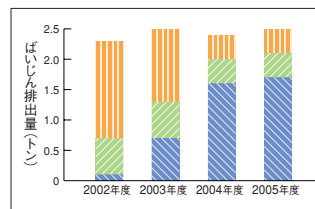
SOx 排出量



NOx 排出量



ばいじん排出量



2005年度は土壌汚染に関する事象の発生はありませんでした。

用水使用量の削減について

2005年度は、目標である2005年度までに国内生産拠点における水使用量の生産高原単位を5%削減する(2000年度比)に対し

て、34%の増加となりました。

これは、分子となる水使用量が3,311千m³と2004年度に比べて301千m³増加し、分母となる生産金額がTFT液晶の単価下落より、小さくなったためです。

また、2005年度の循環水利用量は249千m³で、水使用量の7.5%にあたります。

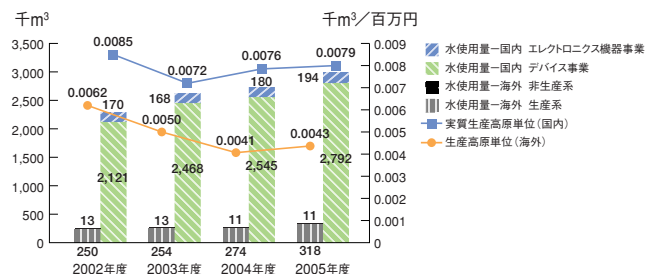
今後の取り組み

■国内生産拠点:2008年度までに実質生産高原単位で10%削減(2000年度比)

■海外生産拠点:2008年度までに生産高原単位で5%削減(2004年度比)

を達成するために取り組んでいきます。

水使用量と実質生産高・生産高原単位の推移(国内・海外)



水域汚染物質(BOD)の削減について

定期的な排出量測定と法規制順守

国内拠点では、水域汚染物質の法定基準値を順守するため、自主基準値を設定し、定期的(年2回)に測定を行っています。海外拠点では、法定基準値が設定されている場合は、定期的(年1回)に測定を行っています。いずれも法規制値を順守しています。

排出量の推移

2005年度のBOD値が2004年度に対して増加したのは、排水量の増加とカシオタイの測定値を加えたことによります。また、デバイス事業のBOD値が全体のBOD値の68%を占めています。

今後の取り組み

これからも法規制値を順守すべく取り組んでいきます。

BOD 排出量

